



こだわりの強さ

「拘る(こだわる)」という言葉があります。広辞苑第5版では「こだわる」は「気にしなくてもよいような些細なことにとらわれる。拘泥する」と書かれています。自分以外の他人からみると些細で気にならないことかもしれないけれど、自分自身からすれば、些細ではない、とても大切に気になってしょうがない、そう思うことが「こだわり」という意味です。

あなたは10人の友達とランチに行きました。お店の人が「セットメニューはうどんか蕎麦が付きます、どちらにしますか」と言いました。あなた以外が全員「蕎麦」、あなただけが「うどん」を選んだとしましょう。誰かが言いました。「全員が蕎麦にそろえた方が、料理が早く出てくるし、あなたも蕎麦にしたらどう？」あなたが「いいえ、絶対にうどんにします」と答えたとします。口には出さないけれど、きっと何人かの友達は、「蕎麦とうどんはおまけでついてくるメニューでどちらでもよい些細なことなのだから、蕎麦に変更してくれたらお店の方も楽だろう。うどんにこだわらなくてもよいのに。」と考えることでしょう。しかし、見方を変えると、あなた以外の10人が蕎麦に拘っているとも言えます。本当は少数派だけがこだわっているわけではありません。

ここであなたが「私、蕎麦アレルギーがあるので蕎麦はダメなので、うどんをお願いします」と言うと、多くの友達は「あ、こだわっていたわけではなく、ちゃんと理由があったんだ」と納得するでしょう。蕎麦ではなくうどんを強く希望しているという事実は理由が開示される前と後で全く変わっていないにもかかわらず、友達は単なるこだわりではなかったと認識を変えるのです。実は、こだわり行動をすることを決めているのは自分自身ですが、その行動をこだわりと認知するのは周囲の人です。山登り、魚釣り、切手収集、骨董収集などの趣味も一種のこだわり行動です。手品などのように他人の邪魔にならず、むしろ他人を楽しませてくれる趣味であれば、こだわりと言われることもほとんどありません。

不登校もそうですが、一見すると不適切に思える子どもの行動は、自分にとっての重要な意味を敏感に感じとっているための行動なのでしょう。このこだわりの強い行動に対応するのは、周囲の人が自分のこだわりを捨てて、ありのままを受け入れる、「まあ、いいかな」と感じる鈍感力をもって接することだと思います。

マイコプラズマ感染症

「マイコプラズマ肺炎」という病原体による呼吸器感染症。マイコプラズマ肺炎は1年を通じてみられとくに冬季にやや増加する傾向があります。しかし近年、季節に関係なくマイコプラズマ感染症が増えてきています。保育園、学校、家庭内など集団生活の場で流行します。マイコプラズマ肺炎は一度罹っても免疫が十分できないため繰り返し罹ることがあります

オリンピックの開催のように4年ごとに流行するという説もあります。

◆感染経路

飛沫感染→感染者の咳・くしゃみによって飛散した病原体を吸入することで感染

接触感染→病原体が付着した手で目口鼻などの粘膜を接触することで感染

◆潜伏期間

感染してから発症するまでの期間は2~3週間

◆主な症状

発熱・全身倦怠感・頭痛・咽頭痛・筋肉痛

発症初期は痰を伴わない乾いた咳から次第に痰のからんだ咳(咳症状は解熱後も長期間続くことがあります)

◆感染予防

風邪やインフルエンザと同様に普段から手洗いをすることが大切です。咳症状がある場合はマスクを着用するなどの咳エチケットを守りましょう。

◆診断と治療

PCR検査で1時間程度で診断可能です。抗菌薬(抗生物質)の投薬によって治療します

抗生物質を投与して48~72時間経過しても解熱しない場合は薬の種類を変えることがあります

◆登園・登校の目安

学校保健安全法で第三種の感染症に分類され、発熱や激しい咳が治まって、食事・睡眠がいつもどおりできるようになるまではお休みしましょう。症状により園医、学校医、他の医師において感染のおそれがないと認めるまで出席停止となります。一般的には解熱してから2日程度経過すれば日常生活に支障がないレベルと考えられています

